

■ 会員の種類

日本薬学図書館協議会には、下記の5つの会員の種類があり、それぞれ活発に活動しています。その活動内容をご紹介します。

正会員

A 全国の国公私立の薬学系大学、薬学部等の図書館が参加し、研究会等を通じて研修と薬学の情報交換等を活発に行い、日常業務に貢献しております。

B 全国の製薬企業や関連図書館が参加し、年1回開かれる研究会や各地区の研修会等で研鑽を行い、参考業務等に大いに役立てております。

個人会員

個人の方で、薬学や生物学、化学、工業化学、生命科学あるいは環境衛生学等に興味を持ち本会の研究会等に個人で参加し、研鑽を積みみたいという方にお勧めの制度です。

機関誌「薬学図書館」を1部無料で入手できるほか会の各種刊行物も会員価格で入手できます。

賛助会員

個人・団体にかかわらず本会の事業に賛助して下さる方の制度です。機関誌「薬学図書館」を1部無料で入手できるほか、各種刊行物も会員価格で入手できます。

電子ジャーナル・コンソーシアム会員

JPLA電子ジャーナル・コンソーシアムに参加できる会員制度です。理、工、農、生命科学系の大学図書館でも、一般企業でも参加できます。

■ 会員の特典

薬学・図書館業務等に関する情報が得られます。

機関誌「薬学図書館」(季刊)は薬学・図書館学のみならず、図書館を取り巻く様々な問題について貴重な情報源です。会員専用メーリングリストや掲示板により、身近な問題に関する種々の情報が得られます。

自己研鑽・研修の機会を得られます。

毎年「研究会」を開催しており、その時々のもっともホットなテーマについて学べます。また、他の会員との情報交換は自己研鑽の大きなチャンスです。

日本医学図書館協会と共同で開催される中堅職員研修会、地区で開催されている研究会など多くの「学びの場」を提携しています。

電子ジャーナル・コンソーシアムに参加できます。

JPLAコンソーシアムの特徴は、加盟館が参加するコンソーシアムを自由に選んで参加できること。企業にも門戸を開いたコンソーシアムであることにあります。2010年は46のコンソーシアム提案を受け、そのうち43の提案が成立しました。代表的なものとして、American Chemical Society全タイトルパッケージ(89)、John Wiley and Sons(52)、Nature(83)、Oxford University Press(30)などがあります。

※()は参加館数

■ 年会費等 (平成21年度)

	正会員		個人会員	賛助会員		電子コンソーシアム会員
	A	B		個人	団体	
機関誌「薬学図書館」の配布	○	○	1部	1部	1部	1部
協議会出版物の購入	2部	2部	可能	可能	可能	可能
総会への参加	○	○	○	○	○	—
議決権	○	○	—	—	—	—
研究会等への参加	○	○	○	○	○	○
司書会議への参加	○	○	—	—	—	—
地区会への参加	○	○	○	○	○	—
役員の委嘱	○	○	○	—	—	—
各種委員の委嘱	○	○	○	○	○	—
広告掲載	—	—	—	—	可能	—
入会金	100,000円	100,000円	なし	なし	なし	なし
年会費	50,000円	100,000円	10,000円	1口 20,000円	1口 20,000円	大学図書館 60,000円 企業図書館 110,000円

日本薬学図書館協議会

活動のご案内

日本薬学図書館協議会(The Japan Pharmaceutical Library Association 略称JPLA)は、薬学図書館事業の振興を図り、薬学教育および研究に寄与することを目的とし、薬学系の大学、製薬企業、研究所、試験所の図書館(室)が加盟して、薬学の情報や知識等を得るために活動しています。



日本薬学図書館協議会

〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋1-1-1/パレスサイドビル9階(株)毎日学術フォーラム内
TEL 03-6267-4550 FAX 03-6267-4555
E-mail jpla@mycom.co.jp http://www.yakutokyu.jp/

ごあいさつ

問題解決型図書館 —受動から能動へ意識改革—



日本薬学図書館協議会会長 永井 恒司

図書館という言葉は、“紙”に蓄えられた情報(図書)を管理する場のイメージが強く、今日のように情報の多くが“電子”で蓄えられるようになると、図書館はいらないという暴言に発展する危険性がある。

しかし、本来、図書館の内容は変貌していくべきものである。

日本人は、言語上の理由かもしれないが、とかく言葉にこだわるようで、古い言葉は惜しみなく捨ててゆく傾向がある。

現に図書館といわずに情報センターと呼ぶ機関も現れている。情報センターとなると、教育研究や文化活動と関係がない場合もある。やはりLibraryでなければならないであろう。英語を使う国で、Libraryがなくなるとは思えない。

確かに、これからは図書の管理だけを業務とする受動的な図書館では生きながらえるのが難しくなるであろう。したがって、図書館はその内容を変えて発展することを考えるべきで、そうであれば無限の夢がある。

話は少し飛躍するかもしれないかもしれないが、月に人類を送り込むことに成功したアポロ計画は、図書館学(広義の)がとてつもなく大きな働きをしたが故にもたらされたと言えよう。

アポロ計画の基盤になる単独の科学があるわけではない。たとえば、大学にアポロ計画学なる講座はない。あらゆる科学技術を集積・調和することに役立つ図書館学がその成功を導いたのである。

したがって、少し話の次元を下げ、図書館が大学や企業における教育研究や開発研究をコーディネートする問題解決型のセンターとして機能するようになれば、いかに大きな発展があるか計り知れないところである。

日本の薬学界で、「薬学とは何か」が活字になって論じられてはいるけれども、Unit Scienceを人間の幸せのために役立てるためのScience(Science of Science)は議論されないように思う。同様に、研究についても個々のものは優れているとしても、定まった目的のためにいかに集積・調和させる研究(Research on Research)が弱いように思う。

ここで言うScience of Science及びResearch on Researchそれぞれの最初の単語のScience及びResearchは広義の図書館学であると言いたい。



沿革



日本薬学図書館協議会は、伊藤四十二東京大学薬学部教授(初代理事長)の提唱により1955年(昭和30年)4月に設立されました。発足当時より薬学系大学図書館と製薬企業図書室により構成されています。

活動



薬学図書館協議会は次のような活動を行っています。

研修会の開催

全国の国公私立の薬学系大学、薬学部等の図書館が参加し、研究会等を通じて研修と薬学の情報交換等を活発に行い、日常業務に貢献しております。

地区協議会

協議会の全体の活動と平行して、北海道・東北地区、関東地区、北陸・信越地区、東海地区、近畿・中四国・九州地区の5つの地区での活動を行っています。

出版物

機関誌「薬学図書館」を季刊で発行しています。また薬学情報・教育に関する書籍の編集・発行も行っています。



電子ジャーナル・コンソーシアム

外国雑誌価格高騰への対応策として、特定非営利活動法人日本医学図書館協会と協同で、国内外の出版社、学協会などとコンソーシアム契約の交渉を行い、図書館にとって有利な購読条件を引き出しています。

その他

会員機関内での資料の交換や相互利用を行っています。また、薬学関係諸団体と情報交換および連携をはかっています。

目的



日本薬学図書館協議会は、薬学図書館事業の振興を図り、薬学教育および研究に寄与することを目的とし、薬学系の大学、製薬企業、研究所、試験所の図書館(室)が加盟して、薬学の情報や知識等を得るために活動しています。

委員会

各種事業を遂行するために、委員会を設け活動しています。

広報委員会

広報委員会では、会員内外に薬図協の活動をPRするためのホームページ、会員内に情報を提供するためのニューズリスト、会員間での相互情報提供を活発に行うためのメーリングリストの3つの活動を行っています。薬図協の動きが目に見える広報を目指して今後とも充実した活動を目指します。

機関誌編集委員会

各号を4~5名の委員で担当し、企画・執筆依頼・校正・出版という流れの中で、色々頭をひねっています。機関誌を交流の場にしたいという希望をもって、企画を考えています。執筆依頼があった際には、どうぞ気楽に参加してください。機関誌をより身近なものにして行きましょう。

教育・研究委員会

教育・研究委員会は研究会および中堅職員研修会を開催することにより、薬学図書館員が基本的に必要とされる情報・技術を修得するための場を提供しています。

日本薬学会「薬学図書館協議会」シンポジウム企画・運営委員会

加盟館および薬学図書館関連機関等の協力のもと、毎年開催される日本薬学会年会において、薬学図書館をとりまく状況、医薬品情報の提供等に関するシンポジウムを企画、運営し医薬品情報活用の啓発をはかる場を提供しております。

雑誌問題検討委員会

電子ジャーナル・コンソーシアムの形成と1999年に生じたいわゆるElsevier Science社の円価格問題への対応を目的に2001年3月に発足。薬学関係諸団体と協力して、薬学分野における電子ジャーナル、データベース等のコンソーシアム契約形成と会員拡充を推進し、会員により良いサービスの提案ができるように活動を行っています。

2003年からは、特定非営利活動法人日本医学図書館協会の雑誌委員会と協同で洋雑誌電子ジャーナルのコンソーシアム契約に取り組んでいます。